

仙台市 農政だより



発行 仙台市経済局農林部(農政企画課、東部農業復興室、農業振興課、農林土木課)
 〒980-8671 青葉区国分町3丁目7-1 電話 022-214-8265(農政企画課) FAX 022-214-8338
 ホームページ http://www.city.sendai.jp/business/d/keizai_03.html
 Eメール kei008110@city.sendai.jp(農政企画課)

生産から加工・販売を目指して

～農業の六次産業化を応援します～

仙台市では、農業の「六次産業化」を進めるための取り組みを行っています。六次産業化とは、農業などの一次産業を行う生産者が、生産物に付加価値をつける加工や、流通・販売などの二次、三次産業まで行う経営を展開する取り組みのことです。

今回は、震災前から手づくり味噌の加工・販売を行ってきた岡田生産組合の取り組みを紹介します。宮城野区岡田地区の農業者で組織される岡田生産組合(組合長 遠藤源二郎さん)では、集落ぐるみで営農を行っています。組合で収穫した農産物を使った地場産品を生産しようと、平成11年度から生産した米や大豆を原料とした味噌づくりを行ってきました。

震災による津波で、海岸近くにあった加工場は全壊、原料の米・大豆の大部分が作付けできない状況となりましたが、平成24年3月に新加工場が完成、味噌の仕込み

を再開しました。震災後初めて仕込んだ「岡田味噌」は、熟成を経て10月に出荷を迎えました。



岡田生産組合のみなさん

市内ではこのほかに、カット野菜の製造・流通や農家レストランなどへの取り組みが行われています。

市では、設備導入への補助や講演会など、「六次産業化」を応援する様々な取り組みを実施していますので、ぜひご利用ください。

六次産業化関連情報

六次産業化専門家派遣事業を実施しています

六次産業化に取り組む上で必要となる様々な事項について、指導や助言を行う専門家を派遣します。パッケージデザイン・ホームページ製作・商品のチラシ作成をする際などには是非ご利用ください。

◆対象者 農業法人、農家グループ、認定農業者

◆派遣内容

- 新商品開発や新サービス提供のための指導、助言
- 販売促進のための指導、助言
- その他六次産業化に必要な指導、助言

◆費用 無料

(講師謝礼は市で負担します。会場や材料等はご準備下さい。)

◆派遣回数 年度内5回まで

◆申し込み方法 左記までお問い合わせください。

【農業振興課農商工連携推進室

214・8266】

六次産業化を進める設備購入等の補助事業を実施します

六次産業化の取り組みを支援するため、農産物の商品開発に必要な加工機械・器具や商品開発に必要な調査等の経費の一部を補助しますので、お気軽にご相談ください。

補助対象者

認定農業者、認定新規就農者、農業法人及び農業者3戸以上で構成する任意団体で、市や国、県が実施する六次産業化に向けた人材育成講習や専門家派遣等を受講されているか受講される予定の方

補助対象事業

- 加工品製造に使用する機械や器具、販売に必要な材料の購入費用
- 商品の市場調査費やパッケージ作成、商品名開発の費用

補助率

事業費の1/2以内

(1対象者につき上限100万円)

締切

平成24年12月7日(金)

詳しい内容については、下記担当までお問い合わせください。

六次産業化の先進的農業者による講習会を開催します

稲作と酪農を組み合わせた循環型農業に取り組み、おかきや餅などの加工品の販売も行い、第40回日本農業賞 個別経営の部で大賞を受賞した、長野県東御市の株式会社永井農場 代表取締役 永井進氏をお招きして、左記の講演会を開催します。

演題

米の六次産業化の取り組みについて(仮題)

日時

平成24年12月11日(火) 13時~15時

開催場所

仙台サンプラザ 3階 宮城野

締切

平成24年11月30日(金)

申し込み方法

住所、氏名、連絡先を、電話、FAX、Eメールで左記担当までお知らせください。

【担当】

農業振興課農商工連携推進室

TEL 214-8266

FAX 214-8338

E-mail

kei08130@city.sendai.jp

仙台産農産物PRキャラクター「ここちゃん」デビュー

仙台市とJ.A.仙台が主催する「第8回枝豆まつり」が8月2日(木)に開催され、せんだい産農産物表示マーク「ここちゃん」が着ぐるみとしてデビューしました。「ここちゃん」は平成16年度に仙台市の農産物を表すマークとして誕生し、平成19年度に公募により、愛称「ここちゃん」と命名されました。以来、野菜包装へのマーク貼付など、仙台産農産物の市民への周知のために使用してきました。



「ここちゃん」の着ぐるみ

会場では、親子連れをはじめ、大勢の市民や出店者の方々に温かく迎えられました。身長約2m、幅1.5m、大きな葉っぱを頭につけた動く「ここちゃん」の登場に歓

声が上がりました。訪れた皆様は新鮮な枝豆を食べながら、楽しいひと時を過ごしていました。



イベントでの様子

このお披露目を皮切りに、東京丸の内で行われた「はらくつつい宮城市場」でのPRや、県内でのテレビ出演など、地産地消を進めるさまざまなイベントに出演しているところ

今後、仙台産農産物PRキャラクター「ここちゃん」とともに、生産者の皆様と力を合わせ、新鮮で安全な美味しい仙台産農産物の魅力を伝えていきます。

【農業振興課農商工連携推進室

214-8266】

生産技術情報 花き

来年のお盆（8月咲き）や彼岸（9月咲き）出荷用の、小ギクの育苗法について紹介します。

露地での小ギクの栽培管理

翌年の挿し穂を確保するには次の3つの方法があります。

① 株分け法

台刈り、施肥、土寄せして養成した採花株（親株）を掘り上げ、株分けして伏せ込む方法。

植床（土壌改良は前号参照）は幅120cm、通路60cmの短冊うねとし、株がふれ合わない程度に定植します。溝を掘り根は四方に広げ、株を斜めに並べ、冬至芽が5cm程度隠れる様に覆土をします。隣の品種との区分けに波板等を使うと、冬至芽が混じるのを防ぐことができます。萎ちようを防ぐため、土と根が密着する様にたつぷり水をかけ、伏せ込んだ後に立ち枯れ病予防薬剤を散布します。

活着まではビニールトンネル

を被覆し、密閉状態で15〜20日間高温多湿状態に保ちます。活着を確認したら被覆材を除き、日中は外気に当てます。夜間もやや開放状態にして寒さに当て、休眠打破のための条件を整えます。

12月下旬頃までに休眠が打破されるので、その後は二重トンネル等による保温を開始します。温度は昼間（最高）20℃、夜間（最低）5℃を目安に管理します。日中の温度が高すぎると、品種によっては育苗・定植後に生育障害が起こることもあるので、温度管理には十分留意します。

かん水は午前8時から10時までにを行い、その間隔は1〜2日とします。天気の良い日はハウスの換気を十分図り、湿度を下げるとともに、地際部の傷んだ葉やカビが発生している葉を取り除いたり、白さび病の予防やアブラムシの防除等を定期的に行います。

② 冬至芽法

台刈り、施肥、土寄せして養成した採花株を掘り上げ、冬至芽を5〜6cmに切り分けて伏せ

込む方法。

開花や摘芯等によって生長が止まると、地際部に近い地中、あるいは地上部の節から冬至芽が発生します。冬至芽の発生は20℃程度が適当で、30℃だと著しく遅れます。また、高温で発生した冬至芽は白く、地中にもぐって横に長く伸びます。逆に低温で発生した冬至芽は直立に近い形で地上部に伸び、すぐに葉を作り、赤紫色をおびます。16時間以上の長日では、親株の生育が旺盛となり、冬至芽の発育が抑えられます。これ以下の短日条件ならば、冬至芽発生への影響は大きくありません。

冬至芽の採取は十分に低温を受けてからがよく、10月下旬〜11月下旬までに行います。病害虫（特に白さび病）の発生を防ぐため、無病な株を選び、できるだけ地下部に発生した冬至芽を利用します。展葉している場合は、展開葉をはずして伏せこみます。

1芽から平均3本採穂できます。①と同じ床を用いて5cm×10cm間隔で根をつけたまま伏せ込みます。伏せ込み後も①と同

様とします。この方法は、手間はかかりますが、その後の芽が揃い、挿し穂も揃います。

③ かぎ挿し法

台刈り、施肥、土寄せして養成した採花株から根の付いたわき芽をかき取って伏せ込む方法。新根が発生したら、わき芽を根が付いたまま採花株からかき取って①、②と同様の床に10cm×15cmの間隔で植え付けます。かき芽数は、定植予定数の10〜15%とします。植え付けが遅れると、低温で生育が遅れ、年内に十分に活着させることができません。挿し穂の確保が不可能となりやすいので、早めに行うことが必要です。伏せ込み後も①、②と同様とします。

この方法は、小面積で挿し穂が確保でき、穂の揃いも良くなります。



かぎ挿し苗
(農業技術体系花卉編より引用)

生産技術情報 害虫対策

アブラムシ類について

○被害

アブラムシ類は半翅目に属し、直接的な被害と間接的な被害をもたらしめます。

直接的な被害として、虫自体は弱いものの増殖力が極めて強く、汁液を吸収され、寄生部位の縮葉などにより、生育が著しく低下します。

間接的な被害として、排せつ物の甘露に発生する「すす病」による品質の低下があります。また、キュウリモザイクウイルスに代表される植物ウイルスを伝搬し、ウイルス病を発生させます。野菜に寄生しない種類でも、有翅虫が口針を「さぐり挿入」するだけで、ウイルス感染をもたらす危険な害虫です。

○種類と発生生態

国内だけでも700種を超すといわれますが、栽培植物を加害する種類は30種余りと多くあ

りません。代表的なアブラムシは、最も多くの野菜類に発生する「モモアカアブラムシ」、ウリ科、ナス科などの果菜類に多い「ワタアブラムシ」、アブラナ科野菜に多い「ダイコンアブラムシ」、「ニセダイコンアブラムシ」などです。

体長は1〜4mm程度のものが多く、体色は濃緑、淡緑、赤、茶、黒、緑色と個体差があるため、色により種類を特定するのは困難です。春から秋までは、非常に増殖力が強く、条件が良いと毎日10匹程の雌の子を胎生で生みます。10日程で成虫になり、雌だけで繁殖を繰り返します。多くの種類では、晩秋になり気温が低下すると雄が現れ、卵生雌と交尾して受精卵を産み、卵で越冬します。春にふ化した無翅雌虫から有翅雌虫が生まれ野菜などに移住して胎生生殖を繰り返します。このように生活環境に対する適応性が高く、増殖のために両性生殖から単為生殖、卵生から胎生、無翅態から有翅態と変化する、きわめて稀な生態をもっています。

○防除方法

有翅虫は活発に飛翔し、黄色に強く誘引される一方、銀色には忌避行動を示します。耕種的防除として、銀色のマルチングや寒冷紗などの資材が有効です。

また、アブラムシ類はウイルス病を伝搬しますので、生育初期からの防除が必要です。増殖力が強い場合、化学的防除で農薬を使用する場合は、残効の長い粒剤を定植時や播種時に使用することをすすめます。通常、殺虫剤は予防的に散布しても効果がありませんので、よく観察して発生初期に防除することが大切です。これまで効果があつた有機りん剤、カーバメート剤、合成ピレスロイド剤に抵抗性を持った個体が出現して問題となつていきますので、必ず散布後の効果の確認を行い、効果が無い場合は、タイプの異なる薬剤を散布します。なお、液剤や水和剤の散布に際しては、アブラムシが寄生している葉裏にも付着するよう散布します。

【仙台市農業園芸振興協会

288・1771】

主なアブラムシの特徴

種類	項目	体色	大きさ	コロニー	寄生植物	多発時期	寄生場所	条件
モモアカアブラムシ		黄色から暗緑色 光沢	1.6 mm	作らない	ウリ科 アブラナ科	初夏	成熟葉、新葉	晴天、乾燥
ワタアブラムシ		暗緑色 光沢なし	1 mm	大きい	ウリ科 ナス科	梅雨明け以降	新芽、葉裏	高温、少雨
ダイコンアブラムシ		暗緑色 白粉で覆われる	2.2~2.5 mm	大きい	キャベツ ブロッコリー	春~初夏	外葉、葉裏	高温、少雨
ニセダイコンアブラムシ		暗黄緑色 白粉で覆われる	1.7~2.0 mm	大きい	ダイコン ハクサイ	秋冬	下葉、葉裏	晴天、乾燥
ジャガイモヒゲナガアブラムシ		黄色から緑色	2~2.5 mm	小さい	ナス科 マメ科	初夏から初秋	葉裏	高温、少雨

仙台市からのお知らせ

お知らせ・お願い

「特区制度で税の優遇を！」

仙台市東部地域の復興産業集積区域内において、区域内の農業振興および雇用機会の確保に寄与する農業やその関連事業を行う事業者は、税制上の特例措置を受けられます。

例えば、乾燥調製施設を新設する場合、建物の取得に対する不動産取得税や、建物・設備にかかる固定資産税（5年間）が免除になります。また、減価償却額の増額もしくは、取得額の一部を所得税または法人税から直接差し引くことができます。

「農と食のフロンティア推進特区」による税制の特例措置を受けるためには、施設等を取得する前に指定を受けていただく必要があります。すでに施設等を取得された方も、指定を受けられれば、特例措置の一部を受けられる可能性もありますので、お

気軽ににご相談ください。

【東部農業復興室

農と食のプロジェクト推進係

214・7329

耕作放棄地の維持管理に努めましょう

耕作放棄地は、病害虫や鳥獣被害発生の温床になりやすく、また産業廃棄物等の不法投棄場所になる危険があるなど、周辺農地に悪影響を及ぼします。草刈り等を行うなどして、農地の保全に努めましょう。

耕作放棄地の再生利用などに関し、国の支援制度も含め、ご相談を承っていますので、お気軽にご連絡ください。

【農政企画課農地保全係

214・8334

募集・助成・各種手続き

津波被災農地で春キャベツを栽培しませんか

塩害に強く、省力安定栽培が可能なキャベツ（6月獲り）栽培の試作を希望する方に、苗の

提供を行います。

◆対象 東日本大震災で津波被災を受けた畑の耕作者（平成24～25年度に国の直轄工事が実施されるエリアを除く）

◆配布苗 1戸当たり、128穴セルトレー最大9枚

◆費用 無料

◆配布時期 3月中旬（仙台市農業園芸センターにて配布）

◆募集戸数 7戸

◆締切 平成24年11月30日（金）
◆申し込み方法 住所、氏名、電話番号をお知らせください。

【仙台市農業園芸振興協会 288・1771】

せんだい産農産物表示マーク「ここちやん」の版代を助成します

仙台市では、せんだい産農産物表示マーク「ここちやん」を野菜の包装袋や農産加工品に表示、貼付する活動を推進しています。この制度を活用した方々からは



◇一目で仙台産とわかるようになった

◇生産者の名前が一緒に入られるので便利

◇助成の内容は、袋やシールの印刷に係る版代助成で、一版あたり上限4万円です。

仙台産農産物への「ここちやん」マークの使用や印刷を希望される方は、左記までお問い合わせください。

【農業振興課農商工連携推進室 214・8266】

「仙台市旬の香り市」出店者募集

農業者自らが、安全で新鮮な地場農産物や、農産加工品を市民に直売する旬の香り市を、農業園芸センターや勾当台公園グリーンハウス前で、6月から11月まで開催しています。

来年度も開催を予定しておりますので、市内の農業者で農産物や農産加工品の直売を希望する方は、ご連絡ください。

【仙台市農業園芸振興協会 288・1771】

利用権設定(農地の貸借)の申し込みについて

農業委員会では、農地を貸す方、借りる方の新規・更新の申し込みを受け付けます。

貸借の要件は、市街化区域以外の農地で契約期間3年以上です。なお、期間満了時の離作料は不要です。

申し込み希望の方は、農業委員会にある申込書に必要事項をご記入のうえ、期限までにお申し込みください。

農地所有者の方は、固定資産税課税明細書の写しが必要です。

◆申し込み締切

- ①平成25年4月1日設定
平成24年12月12日(水)
- ②平成25年4月15日設定
平成25年1月15日(火)

※J A仙台でも利用権設定(農地の貸借)を行うことができます。

【農業委員会事務局事務課農地係

214・4340】

講演会・セミナー関連

野菜販売力アップ講習会を開催します

生産者にとって多様化が進む野菜の流通について、消費者や実需者が何を求めているのかを、農産物取扱いに携わる関係者から情報を聞くことで、生産や経営の問題を解決しましょう。

◆テーマ 野菜の流通について

◆講師 株式会社孝州(卸売業)

前澤巨氏

◆日時 平成24年12月5日(水)

13時30分～15時30分

◆開催場所 仙台市農業園芸

センター

◆募集人員 30名程度

◆締切 平成24年11月22日(木)

◆申し込み方法 住所、氏名、

電話番号をお知らせください。

【仙台市農業園芸振興協会

288・1771】

施肥設計検討会

「土壌診断の結果を 読み解く」(水稻編)

参加者募集

より良い農産物を生産するには「土づくり」が重要です。土壌分析の結果をもとに、過剰施肥や土壌の塩基バランスの崩れをなくす最適な施肥を導き出す技術を学ぶための検討会を行います。

◆講師 フクダ物産株式会社

内海幸一氏

◆日時 平成25年1月23日(水)

13時30分～15時30分

◆開催場所 仙台市農業園芸

センター

◆募集人数 10名程度

◆締切 平成24年12月11日(火)

◆申し込み方法 住所、氏名、

電話番号をお知らせください。

【仙台市農業園芸振興協会

288・1771】

農業者実践セミナーを開催します

拡大や経営等に必要な知識を習得するセミナーを開催します。

「わかる 複式簿記について」

◆講師 仙台市農業園芸振興協会

伊藤順一

◆日時 平成25年1月24日(木)

13時30分～15時30分

◆開催場所 仙台市農業園芸

センター

◆募集人員 30名程度

◆締切 平成25年1月10日(木)

「若手農業者の経営参画」

◆講師 宮城県青年農業士

関口英樹氏(蔵王町)

◆日時 平成25年2月20日(水)

13時30分～15時30分

◆開催場所 仙台市農業園芸

センター

◆募集人員 30名程度

◆締切 平成25年2月6日(水)

◆申し込み方法 それぞれ期限

までに、住所、氏名、電話番号をお知らせください。

【仙台市農業園芸振興協会

288・1771】

農業経営者意識を高め、販売